

# 『コメント英単語』の特徴とその活用法

池野 修

## 1. 「単語を知っている」とは

「英語学習で一番重要なものは何か？」と聞かれたら、多くの人は、自身の学習経験に基づき、「単語(学習)」と答えるのではないだろうか。経験則だけでなく、多くの英語教育学の研究において、英語運用能力、英語リーディング能力、英語ライティング能力などを説明・予測する要因として、最大の要因は語彙(知識・能力)であることが実証的にも示されている。(もちろん、場面や目的によっては、単語よりも発音や文法などがより重要になることがあるのも確かであろう。)

「単語を知っている」とは、単にその意味を理解していることに限定されるわけではない。以下の例を見てみよう。いずれも、語彙の知識の一部が欠如しているために起こっている問題である。

(A) /ɑ:pərə/, /pəʊəm/, /tʌnl/ と発音された単語が聞き取れない

(B) image を「イメージ」と発音する

(C) *Ijime* (bullying) is a serious problem today.

(D) Now I am living in a one-room mansion.

(E) The bag was heavy, so I put it.

(F) (フォーマルなライティングで) I wanna be a superstar, I mean, someone who is ...

(A)は、カタカナで表記すれば「アプラ」「ポーム」「タノウ」のように聞こえるかもしれないが、これらを opera, poem, tunnel と認識できない場合は、学習者の「頭の中の辞書(mental lexicon)」において、それらの単語の音声に関する知識が欠けていることを意味する。(B)についても、「イメージ」と発音する場合は、/ɪmɪdʒ/ という正確な音韻情報が備わっていないことを示している。(C)は綴りの問題(言うまでもないが、正確には problem), (D)は mansion(大邸宅)という単語が意味していることの誤解(=正確な意味情報の欠如), (E)は put という

動詞には目的語の後に場所を示す表現(前置詞句や副詞句)が必要であることが理解できていない(=正確な統語知識の欠如)ことから起こる問題である。(F)は、フォーマルな書き物において、あまりにくださった口語表現を使っているという問題(=単語の使用域に関する知識の欠如)である。これらのことから、「単語を知っている」とは、その単語の音韻(発音)情報、綴りの情報、意味情報、統語情報(形態論的情報も含む)、語用論の情報などが頭の中の辞書に登録されており、その知識をコミュニケーションの中で引き出すことができることを意味する。

このように、語彙の習得には様々な知識の習得が必要とされ、あらためて言うまでもないが、非常に多くの時間と労力を要することになる。

では、語彙に関する知識はどのようにして学ぶのが効果的なのであろうか。私自身は、語彙は、それ自体を独立させて学ぶというよりも、意味のある文脈の中で、情報獲得・情報伝達の目的を持って、実際に英語を使いながら学ぶというアプローチを好む方であるが、このような方法だけでは不十分なことも確かである。日本のような、目標言語(英語)との接触が多くない状況(要するに、膨大な量の英語を読んだり、聞いたりすることがない状況)では、コミュニケーションや英文メッセージから単語を取り出して学習する、単語に焦点化した単語帳を活用しながら学習することも、少なくとも補助的には必要であろう。

## 2. 学習する単語を「限る」

「単語を学ぶ」のには大変な時間とエネルギーを必要とする作業であるため、生徒が持っている資源(時間、労力)を効率的に活用するためには、色々な意味で「限る」「限定する」が必要となる。例えば、習得を目指す単語自体を絞り込む、記憶する語義を限定する、理解できれば良い単語(受容語彙)

と使えるようにする語彙(発表語彙)を区別して学ぶ、などはその例である。

『コメット英単語』が使用者として想定している学習者(以下、「コメット系高校生」と呼ぶ)は、その多くが高等学校卒業後に社会に出て働く高校生である。現在出版されている単語集のほとんどは、主に大学受験を想定したものであり、それらは高校卒業直後に就職を希望する生徒には必ずしも有用とは言えない。それは、受験用単語集は、コメット系高校生が必要としない英単語を数多く含み、しかもそれらを視覚受容語彙(読んで理解できる単語)として増やすことにプライオリティがあるからであり、逆にコメット系高校生が真に必要な単語の習得に十分なエネルギーを割けるように作成されていないからである。

単語学習を「限定する」手段として、『コメット英単語』はまずターゲットとする単語を900語に絞っている。その選定は次のような基準に基づいている。

- (1) 中学校検定教科書(全6社)の多くで用いられている単語(cf. 中学校での必須語彙は1,200語)
- (2) 高等学校検定教科書『COMET English Communication』における新出語の中で重要な語
- (3) 日常生活でよく用いる語
- (4) 想定している活用者(生徒)にとって重要な資格試験に頻繁に出てくる単語(例えば、全商英検3級・4級の過去10回分のデータに基づいて認定している。)

なお、これらの基準は学習者の「ニーズ(needs)」に関連するものであるが、英単語学習への意欲を高める手段の一つとして、生徒が「かっこいい」と感じ、使ってみたくなる言い回しの英会話表現(いわば「ワント(wants)」に基づく表現)も少し含めている。つまり、「大学進学を主な進路としない高校生」を対象に、基本的な単語、社会に出てから必要となる可能性の高い単語、生徒が興味を持つような単語に焦点化した単語集が『コメット英単語』である。

また、単語学習を「限定する」別の手段として、各単語につき、語義をなるべく1つに絞って提示している。(ただし同時に、学習者が知っておくべき語義が複数あると確実に判断される場合は、それらを全て提示している。)このことに対しては、当然の

ことながら批判もあるであろうが、コメット系高校生にとって、学び(単語学習)をあきらめずにつづけられるかどうかという観点を最優先した上での判断である。

### 3. 『コメット英単語』の特徴

学習のターゲットとする単語を900語に限定していることに加えて、『コメット英単語』には次のような特徴がある。

- (1) テーマ毎に、基本的に10語の単語を見開き2ページに提示している。テーマとは「五感(e.g. 見る, 聞く)に関するもの」「仕事に関するもの」などである。
- (2) 各単語には発音記号表記に加えて原音に近いカタカナ表記を提示している。カタカナ表記に対しては、カタカナでは表せない英語の音もある。生徒は単語を読むのではなくカタカナを読むことになるなどの批判がなされる場合もあるが、「コメット系高校生」には、最初は正確さの点で多少問題はあっても、とにかく声に出して読めるということがより重要であると判断したため、この表記を採用している。ただし、カタカナ表記のみに頼るのではなく、後述のように、付属CDを活用して「聞こえたように」発音する練習も行うようにしたい。
- (3) イラストなどの視覚的情報を多く盛り込んでいる。特に、「ビジュアル英単語」というコーナーを10か所設けており、「家族(grandfather, cousin, brother-in-lawなどが樹形図で示されている)」「ものの形(例えば round, box-shaped, rectangular)」などが視覚的に捉えやすいように工夫している。また、「ビジュアルコミュニケーション」という単元も10場面程度作り、「レストランで」「空港(通関)で」「ALTとのコミュニケーションにおいて」などの、生徒が(将来的に)出会う可能性の高い場面でのやさしい会話表現をマンガの形式で提示している。
- (4) 巻末には「Job & Job 英語表現」というコーナーを設け、アルバイト先で、就職試験で、将来仕事についたときなどに役立つ英語表現を提示している。例えば、街で見かけるいろいろな掲示(e.g. NO PARKING 駐車禁止, CASH ONLY お支払いは現金で)、バイト先の飲食店

で使える表現(e.g. Salad is all-you-can-eat. サラダは食べ放題です), 他にも, 研修で来日する外国人労働者とのコミュニケーションで用いる表現, 工学系の基本的な専門用語などである。

#### 4. 『コメット英単語』の活用方法

この単語帳は, 先生方が生徒のニーズに合わせて, また指導しやすい形で活用していただければ幸いであるが, 以下, 活用法に関するいくつかの提案を試みたい。

単語の学習は, 従来は英単語→意味(日本語訳)の確認作業がメインであり, しばしば書く(書いて覚える)という形が基本形であったかも知れないが, 生徒の状況に合わせて次のような形を用いることを検討してみてもよい。

(A) 英単語→意味(日本語訳)の後に, 意味(日本語訳)→英単語というステップを加える。つまり, 日本語で意味が言えることではなく, 意図している意味が英語で言えることをゴールとするのである。『コメット英単語』ではターゲットを 900 語に絞り込んでいるため, その全てを, 読んだり聞いたりして分かれば良い「受容語彙」のレベルで止めるのではなく, 話したり書いたりするときにも使える「発表語彙」にすることを目指したい。2ページ見開きのレイアウト(以下を参照)も, 一番右側が「英語で言う」という形になっているのも, この考えを反映したものである。英単語→意味の確認→その単語を含む使いそうな文→それを英語では...という思考の流れにあったページ構成としているので有効活用したい。

.....→

英単語	意味	例文訳	英語例文
-----	----	-----	------

ゴール

“taste”という単語を例にとれば, taste → ~の味がする → あのレストランはすべてが[おいしい味がした]おいしかった → Everything tasted delicious in that restaurant. となっている。

(B) 音声情報を聞き, 音読しながら覚える。確かに, 記録時(おぼえる時)に音声情報をチェックすることは追加の労力と時間がかかるため, 綴りと意味を覚えるだけで良い, という割り切った考え方もあ

るかも知れない。しかしながら, 真に役立つ語彙にするためには, 『コメット英単語』が対象としている 900 語については, 音声情報は不可欠である。

また, 一般論ではあるが, 五感の多くを総動員して記憶するようにすると効果的である。単語帳を見てチェックする(目)や綴りを書いて練習する(手)だけではなく, その単語の発音を聞いて確認する(耳), その単語を発音してみる(口)といった方法を組み合わせるようにしたい。記録の手がかりが多ければ(例えば, 文字だけでなく音の情報も手がかりとして利用すれば), 記録時の負担は少し大きくなるかも知れないが, 想起(思い出す)の段階では手がかりが増えることにもなり, 単語の知識を活用しやすくなる。

基本的には, 単語, できればその単語を含む例文を見ながら発音してみるという形で構わないが, さらにレベルアップした形として, Read and Look up にも挑戦してみたい。これは, まず英単語や例文を見た上で, 音読する際にはそれらから目を離して(いわゆる「顔を上げて」)発音するという方法である。普通の音読に比べて認知負荷は高いが, それゆえに効果は大きくなると考えられる。

(C) 生徒一人一人が『コメット英単語』を自分なりに「カスタマイズ」し, 『My コメット英単語』にしていく。例えば, 学習した日付をどこかに記入する, 音読回数を「正」の字で記録するなどの形で「学習履歴」が視覚的にも残るように工夫したい。努力の過程が目に見えると励みにもなるからである。また, 気に入った表現をマーカーで塗る, その単語を聞いたこと/目にしたことがある場面などをメモするなどの形で, 自分なりのオリジナル単語帳にする工夫も考えてみたい。(単語学習とは関係ないが, 表紙にお気に入りのステッカーを貼るなどの形からスタートしてもよい。)

(D) 個人での活用だけでなく, ペアでのチェックなども適宜取り入れる。(i)ペアになり, (ii)お互いの『コメット英単語』帳を交換し, (iii)片方が対象ページの英単語/意味を読み上げる, (iv)もう片方が(閉本した状態で)それに対応する意味/英単語を言う, (v)パートナーが言えたらその単語にチェックマークを入れる, (vi)制限時間内でいくつの単語を言うことができたかに挑戦する, (vii)役割を交代して繰り返す, というステップで進める。ペアによるチェック活動

には、一斉の形態で進行しがちな授業に変化や動きを作ることができるというメリットもある。(ただし、この活動を行う場合は、ターゲットとなる単語を生徒がきちんと発音できる状態にしておく必要があることを確認しておきたい。)

(E)『コメット英単語』を使って英単語テストを行う場合、目的に合わせて様々な形式を使い分ける。英単語を示してその意味を書かせるという形だけではなく、次のような形式の英単語テストも考えられる。

(i) 単語の穴埋めによる文完成テスト…例えば、あるテーマの英単語 10 個を対象に、テスト用紙には、ターゲットとなる単語の部分空欄にした例文 10 文(基本的に『コメット英単語』にある例文をそのまま用いる)を提示して、正解となる単語を入れることで文を完成させる。ターゲットとなる単語を下に選択肢として提示してもよい。

(ii) 英単語ディクテーション・テスト…教師がターゲットとなる単語を発音し、生徒はそれを書き取る。聞いて理解できるような単語(=音声受容語彙)になっているかどうか、その最初のステップを評価する手段となるテストである。

(iii) 例文作成テスト…レベルの高いテストになるが、ターゲットとなる英単語のみを提示して、生徒はそれを含んだ例文を書く。基本的に、『コメット英単語』の右ページの右端に提示されている英語例文を書くことを期待している。

「評価」が「学習」の内容に影響を及ぼすというのは経験的にもよく知られていることであり、どのようなテストを行うか、その中身によって生徒が何を勉強するかも決まってくる部分がある。単語の意味しかテストしないのであれば、生徒は『コメット英単語』の左側ページしか学習しない可能性が高く、最終ゴールである「意味(日本語)を見て英単語を言う」「その単語を含んだ例文を英語で言う」を目指さないことになってしまう。

## 5. 終わりに

『コメット英単語』は、大学進学を主たる進路とせず、高校卒業後に社会で働き始めることを選択する生徒のために、彼ら・彼女たちのニーズに合う単語帳が必要であるという認識から編集されたものである。近年、「ミニマリズム(極小主義)」という生

活スタイル(=必要なものを極限までそぎ落として生活するスタイル)がしばしば話題になっているが、その文脈で“Less is more”という表現に出くわすことも多い。これは、ドイツ出身の建築家のミース・ファン・デル・ローエが「より少ないこと、それはより豊かなこと」という意味で用いた表現と言われている。『コメット英単語』を、この「より少なく、より豊かに」という考えを生かし、生徒にとって必要な最小限の英単語を、最大限に学び活用するための英語単語帳にしていただければ幸いである。

(愛媛大学 教授)